

# 「中華思想」の克服

なかしま みねお  
中嶋 嶺雄  
(国際社会学者)

この初冬の一〇日間程、パリとニースを中心にフランスに行っていた。パリではもう四半世紀以上も続いているフランスの中国学者との交流や、かつて客員教授を務めたシヤンス・ポ (Sciences Po) と呼ばれる政治学院での用務があり、ニースは親友の中国研究者がプロヴァンス山中の別荘に滞在しているからである。そんなわけで毎年のようにフランスへ出かけ、滞在中は意地を張ってフランス語で通している。

ところで、ルーブル美術館やヴェルサイユ宮殿などへ観光に来る中国人団体客の急増が、当今のフランス風情になっている。ちょうど四半世紀以前の日本人の海外旅行ブームに近い様相を呈して

いるといえよう。

では、中国人はフランスの文化をどのように観ているのだろうか。言うまでもなく、左右対照の宮殿や庭園の構築から始まって、最近のイラク戦争に示されたアメリカ嫌いに至るまで、かつての毛沢東とドゴールに代表されるナショナリズムや中国語とフランス語の音韻上の類似性まで、フランスと中国のあいだ、中国人とフランス人のあいだには多くの共通性がある。中国料理とフランス料理が食文化の双璧であるように、両者とも「世界で一番」を強く押し立てようとするエスノ・セントリズム (自民族中心主義) そのものだといえよう。

そういえば、私が高校生とき、「ゴローア協会」というフランス語のサークルを創立して学校祭の展示をした際、「フランスの特徴は『中華思想』だ」と、「中華思想」の意味も十分わからないのに、書いて貼り出したことがあった。

「中華思想」は、まさにエスノ・セントリズムの同義語だといえようが、私も生前親しくさせていたいたハーヴァード大学のジョン・K・フェアバンク教授が編んだ名著『中国的世界秩序 (China's World Order)』(一九六八年)や、そこにも寄稿さ

れていた碩学・栗原朋信博士の研究によれば、中華皇帝を頂点として「内臣」「外臣」「朝貢国」という同心円的な三重構造をもつ垂直的支配体制こそ、「中華思想」の歴史的基盤だといえよう。

このような世界秩序は西欧には存在しない。一七世紀後半以降の西欧国家体系 (European State System) に見られる水平的なシステムのなかにフランスもあつたのだから、同じ「中華思想」でも両者には大きな違いがあるといえよう。

パリの大学街(ソルボンヌ)に近いリュクサンブール公園には、スタンダールやジュールジュ・サンドなどフランス近代を彩った文豪の彫像がある。私はいつもここを訪れて様々な感慨にとられるのだが、中国を代表する宗教学者の趙復三氏は、この公園のベンチに坐ってフランス近代の精神を想い、「中華思想」のゆえに近代化に失敗した中国の現状を独り憂えたことがあった。その趙復三氏も、一九八九年の天安門事件でアメリカに亡命してしまつた。

今年も中国がいろいろと話題になるだろうが、「中華思想」の克服なくして中国の真の開放はあり得ない。道はまだまだ遠いといえよう。

## もくじ

表紙 イヌイットのタベストーリー

表紙うら 表紙写真の説明  
岸上伸登

1 みんぱく・えっせい  
「中華思想」の克服  
中嶋嶺雄

2 新書特別対談  
大塚和夫・松園万亀雄  
実践の人類学をめざして

8 最新情報を月々配信  
「みんぱく e-news」  
野林厚志

9 地球短信  
国境とパスポート  
陳 天麗

10 特別展「アイヌからのメッセージ」より  
ものづくりと心

14 よむ・みる・まぐ  
「アイヌ神謡集」をよむ  
いまも心をあたためる  
炉辺のうた  
文 知里むつみ / 絵 岡島礼子

17 みんぱくニュース  
・ビデオテークの新番組公開  
・特別展「アイヌからのメッセージ」開幕

20 民族博物館  
サケ  
文 村木美幸 / 版画 田主 誠

22 読者のページQ&A O

23 メモランダム

24 友の会とミュージアム・  
ショップからのご案内

\*特別展「アイヌからのメッセージ」関連記事中のアイヌ語表記は、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構編「アイヌ語ラジオ講座テキスト」に準拠しています。

昭和53年6月14日第三種郵便物認可 ISSN 0388-2283  
平成16年1月5日発行(毎月5日発行)第28巻第1号通巻第316号

月刊



# みんぱく

2004

1

国立民族学博物館編集

●新春特別対談

大塚和夫・松園万亀雄

●特別展「アイヌからのメッセージ」より

ものづくりと心

●ふむ・みる・せく

『アイヌ神謡集』をよむ

